

# 当麻よし子・所沢市長マニフェスト 進捗状況 外部評価 報告書

平成 23 年 6 月

当麻よし子・所沢市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会

## はじめに

当麻よし子・所沢市長は、マニフェスト「生き活きところざわ あったか市政」を掲げて当選した。同マニフェストは「安心」「自然」「笑顔」「節約」の4柱となっている。また、4柱の政策を実現していくため「財源」という柱も提示している。

一般的に、マニフェストは自己評価が第一義的に重要である。実際に、当麻よし子・所沢市長は、既に自己評価を実施している。しかしながら、自己評価だけでは自画自賛に終始してしまう可能性がある。

そこで、今回、学識者2名から構成される「当麻よし子・所沢市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会」を立ち上げた（長野基・跡見学園女子大学マネジメント学部専任講師、牧瀬稔・財団法人地域開発研究所研究部主任研究員）。そして、外部評価による当麻よし子・所沢市長のマニフェストの評価を実施した。

今回の評価は外部評価2名が、それぞれの専門分野の知見をいかして実施した。また、外部評価は合議制を採用し、評価の客観性を担保するように努めた。なお、評価者の2名は、当麻よし子・所沢市長とは関係がない。その意味では、提示された客観的な資料をもとに、適正かつ独立性の担保された評価が行われたと考える。

既に実施している自己評価とともに今回の評価結果を明示することで、今後の行政運営の一つの責任を果たしてほしい。そして評価結果が、所沢市民の福祉の増進に向けて、よりよい行政運営を展開する一助となれば幸いである。

当麻よし子・所沢市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会

## 1 評価方針

### (1) 評価対象

当麻よし子・所沢市長が提示した「生き生きところざわ あったか市政」（以下「当麻マニフェスト」と称する）は、「安心」「自然」「笑顔」「節約」「財源」の5柱から成立している。

そして5柱には、それぞれ具体的な取組みが記されており、合計49項目ある。今回は、この49項目すべてを評価対象とした。

### (2) 評価材料

当麻マニフェストの評価は、以下の順序により実施した。

- ① 49項目につき、行政計画の位置づけ、事業内容、主な取組実績（平成20年度・平成21年度・平成22年度）などの観点から評価を実施することとした。
- ② ①の記載事項に関する所沢市（総合政策部）からの提供資料により評価を実施した。また適宜、各評価者が市ホームページ等で評価するための資料等を別途入手している。

なお、関係資料のもと評価を行うにあたり、不明な点、詳細な説明等を必要とする事項などが生じた場合、市関係部局へヒアリング等の後追い調査をすることも想定していたが、評価期間等の都合により深くは実施できなかった。

### (3) 評価方法

今回の評価は、「当麻よし子・所沢市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会」を組織し実施した。外部評価委員会の構成員は以下のとおりである。

長野基・跡見学園女子大学マネジメント学部専任講師 牧瀬稔・財団法人地域開発研究所研究部主任研究員
---

各評価者が各項目について、5点満点で裁定した。その後、適宜、評価者の間で合議を実施し、最終的な評価の結果を決定した。

## 2 評価基準

評価基準は2つ設定した。第1に各項目中に掲げられた「施策・事業」を対象とした（評価基準①）。そして、第2に各項目中に掲げられた「条例」の制定に関する項目である（評価基準②）。

下記にある基準は、あくまでも評価の目安であり、具体的な取組み開始状況やその後の実施状況等を総合的に考慮して、各評価者の判断で評点を算出した。

### 評価基準①(各政策中に掲げられた「施策・事業」)

評点	基 準
0点	施策・事業に着手していない段階、かつ予算等の措置を講じていない段階
1点	施策・事業に着手した段階、または予算等の措置を講じた段階
2点	施策・事業の4分の1程度を達成したと判断される段階
3点	施策・事業について、2分の1程度を達成したと判断される段階
4点	施策・事業について、4分の3程度を達成したと判断される段階
5点	施策・事業をほぼ達成したと判断される段階

### 評価基準②(各政策中に掲げられた「条例」の制定)

評点	基 準
0点	全く検討していない段階
1点	検討のための組織(検討委員会等)を設置し、検討を行っている段階
2点	条例素案を公表した段階・パブリックコメント手続を実施している段階
3点	条例案を議会に提出した段階(否決された場合を含む)
4点	条例案が議会で可決された段階(軽微な修正があった場合も含む)
5点	条例が施行された段階(条例施行)

本評価では、項目に着手しただけでは1点以下という評点としている。これは、マニフェストに掲げられた事項は着手にこぎつけることが重要なのもちろんであるが、最も重要なことは成果を上げること、すなわち、掲げられた項目を実現することにあるからである。

この点は、国政における民主党マニフェストの評価や他の首長等のマニフェスト評価の視座と異なり、一見すると、個別評価、全体評価を通じて、辛目の評価という印象を受けるかもしれない。しかしながら、外部評価委員会の真意は、所沢市民のための政策を着実に遂行する市長の使命にかんがみ評価することである。市長、議員、市民及び関係者におかれては、評価結果を精査するに当たり、ご留意願いたい。

また、評価結果の分かれた項目については、合議により評価を行い、その結果、小数点以下を残した場合もあることを付言しておく(例えば、「3.5」や「4.5」など)。

## 3 評価結果

以上の評価方針および評価基準に基づき、評価者により得られた結果(外部評価委員会の結果)は、以下のとおりである。

### (1)個別評価

個別評価の結果は、別の資料「当麻よしこ・所沢市長マニフェスト 評価結果」のとおりである。詳細は、そちらの資料を参照していただきたい。

## (2)総合評価

各評価者の平均点により総合評価を求めた。その結果、245点満点で**179点**であり、マニフェストの達成率は**73.1%**となった(100点満点で73.1点と捉えてもよい)。各項目の結果は下記のとおりである。

分野	項目	点数	達成率
安心	11項目(55点満点)	44.0	80.0%
自然	16項目(80点満点)	51.5	64.4%
笑顔	10項目(50点満点)	31.0	62.0%
節約	6項目(30点満点)	25.5	85.0%
財源	6項目(30点満点)	27.0	90.0%
全体	49項目(245点満点)	179	73.1%

当麻マニフェストにおける事業展開の評価対象期間は、平成20年度・平成21年度・平成22年度という3年間である。評価対象期間が、過去の3年間ということを見ると、この評価結果は及第点が得られていると判断される。今回の「73.1点」という数字は、決して悪い評価ではないということを示しておく。

しかしながら、今回の評価結果には、少なからず課題もある(今回、明らかになった課題は次のマニフェストへのヒントでもある)。まずは、柱(分野)により、大きな差がでている点である。さらに、各項目について、おおむね高得点が得られているが、中には「1点」が散見される。このことについては真摯に捉え、次のマニフェストに反映させていかなくてはならないだろう。

マニフェストを評価する一つの視点として、見込みの甘さなども顕在化できることがある。すなわち、点数の低い「1点」は、やや見込みの甘さがあったと捉えることも可能である。そして、これらの評価結果をいかすことにより、次のマニフェストを検討する際に大いに貢献するだろう。

その意味では、マニフェスト通り実施できないことをマイナス視するのではなく、できなかったことを「なぜできなかったのか」と検証するために役立てることが重要である。その意味では、明快な説明責任が問われることになる。

マニフェストは、過去の行政運営のモノサシとして活用することが大切である。そして、マニフェストを単なる評価に終わらせるのではなく、PDCAというサイクルを参考として、マニフェストサイクルを意識していくことが重要である。

以上、当麻マニフェストについて、おおまかに指摘したが、総合評価としては、「**おおむね良好な結果である**」と判断される。ただし、現時点において、点数の低い事業については、よく顧みて、次のマニフェストにいかしてほしい。そして、何よりもマニフェストは市長の任期中に実現を目指すものである。任期満了の日まで、さらに着実かつ積極的な取り組みを期待したい。

## おわりに

今回の当麻マニフェストを評価する際に、論点となった事項について触れておきたいと思う。

当麻マニフェストに掲げられたすべての項目は既存事業との調整や新規実施計画の策定を含め、行政上の事務事業に「落とし込み」が行われており、その意味で、「政治家の政策」から「市役所としての事業」に編成されている。

また、政策・施策・事務事業の評価体制が整えられ、マニフェストとの関係を含めて、政策情報が非常に分かりやすい形で整理されている。その結果、「共通のデータベース」を市役所として持つことで、「政治家としてのマニフェストの評価」へも、低いコストで利用可能な状態を整えている。

これらが実現した背景には所沢市で行政実務を担う行政職員の努力があることはもちろんだが、そうした努力を組織化した市長のリーダーシップも肯定的に評価されるべきであろう。ただし、マニフェスト自体を詳細に検討すれば、「生産拡大」型とでも形容される政策目標が大半であり、「何をどこまで解決するか、達成するか」が明確になっていない項目が多い。その結果、評価のための基準自体が相対的に曖昧となってしまう、評価者側としては「政策の解釈」をしなければならない余地が多々あった。

したがって、今回の評価は、そうした評価委員会としての「政策の解釈」からのものであり、当麻市長ご自身の考え、あるいは、実施を担った市職員の考えとの間で差異がある可能性を付記するものである。

最後になるが、今回のマニフェスト評価を参考として、当麻よし子・所沢市長は、より一層、所沢市民の福祉の増進という明確な結果が導出できるよう、さらなる行政運営に取り組んでいただきたい。

平成 23 年 6 月  
当麻よし子・所沢市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会